

重点施策	博物館活動の充実	評価実施者	所 属	美術自然史館
		職・氏名	館長 中塚 智勝	

重点施策の概要	目 的	道内の博物館や美術館と連携し、様々な特別展や個性豊かな普及事業を開催するとともに、タキワカイギウや岩橋英遠など収蔵資料の研究や関連資料の収集を進め、地域博物館としての役割を充実します。					
	今年度の主要事業	①特別展事業の実施 「たきかわARTガーデン」「カメが見た太古の世界」「白い森と黒い森」「Youngアーティスト巡回展」 事業費 1,404千円 ②普及事業の実施 特別展の関連事業、「月イチリカ室」「わくわくサイエンス」 事業費 1,137千円 ③岩橋ふるさと北辰振興会の活動支援					
事業の目標と実績			単位	H22	H23	H24	特記事項
	1 入館者数	目標	人	31,700	31,700	35,291	H24 美術15,013 こども 10,083 郷土 972
		実績		31,114	27,184	26,068	H23 美術15,431こども10,953 郷土 800
	2 (企画展の入場者数)	目標	人	10,000	10,000	10,000	H24 植物画コ・カメ展・白い森黒い森・巡回展
	*入館者数の内数	実績		9,239	5,412	7,020	H23 そら・なう展・坪谷六郎展
	3 (市内小中学生の入場者数)	目標	人	3,000	3,000	3,000	・団体(学校の授業)として入場した数
	*入館者数の内数	実績		1,010	721	669	・H23 延べ15校 ・24 延べ12校
	4 (普及事業の参加者数)	目標	人	2,000	2,000	2,074	デッサン会・月イチリカ室・わくわくサイエンス
		実績		1,871	1,595	1,712	
	5 年間パスポートの発行数	目標	枚	1,000	1,300	1,000	H24一般483高校生4中学生3小学生156
		実績		1,085	553	646	H23一般341高校生1中学生11小学生200
	6 年パス購入者の再来館回数	目標	人	1,500	1,500	1,500	平均再来館回数 H24～1.96回・H23～ 2.37回
		実績		2,355	1,312	1,268	*購入日も来館回数にカウント
	7 (学校団体受入生徒数)	目標	人	5,000	5,000	5,000	保育所・小中高生の団体受入数
		実績		2,883	2,925	3,992	

事業の分析効果の検証	①年間入館者数は減少しているが、企画展での入館者数は前年比1,608人の増であった。特に入館者が少ない冬季に開催した企画展(12/15-1/27)の「白い森 黒い森」は市民参加型の関連事業効果で冬季間(12月～2月)は前年比708人の増であった。市民と一緒にやり遂げた特別展となり、効果的な企画展であった。今後も、市民ニーズを吸い上げ、地域住民との展覧会を企画するなど、市民との連携をさらに密にした事業を行いたい。 ②市内の小中学生の入場者数は減ったものの、市外を含めた学校生徒受入数が増えたのはB&Gのカヌーと合わせた体験型施設としての受入が認知されてきた効果と考える。少子化傾向が進む中、札幌圏や旭川圏のこども達も取り込んだ入場者増を図っていく。 ③市内の小中学生に関しては、先生に施設を知ってもらうことが重要と考え、11月のコスモスデーの週を「教員のための博物館の週」と位置付け、先生方に来てもらい施設PRを行う。
課題	①昭和61年の開館以来大きなリニューアルを実施しておらず、常設展示室を含めたリニューアルが必要 ②情報発信の手段である、魅力あるホームページの充実 ③身近な場所で芸術に触れ、故郷の自然や歴史を学ぶ場として、地域の学校との連携強化

評価	B	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 企画展や普及事業の来館(参加)者数は増えており、ソフトの面では事業効果があった。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 入館者増を目指す観点から、リピーターとなる年間パスポート購入者の利便性を図る意味で、平成25年度からは、郷土館も対象施設に加え、パスの購入時から1年間の有効期限とするなど、何度でも来館しやすい環境と条件を整えた。
----	---	--

【評価の区分】

- A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
 B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
 C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
 D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	①文化勲章受章者である日本画家・岩橋英遠芸術と北海道の天然記念物であるタキワカイギウを滝川市の歴史的な文化を代表するシンボリックな存在として発信し続けていく。 ②こども科学館においては、今後も「月イチリカ室」など身近な科学の実験を通じて子ども達の科学に対する関心や興味を広げる事業展開を図る。 ③ふるさと滝川を「記憶」し続ける方策として「岩橋英遠芸術の振興」「タキワカイギウを核とした滝川海の再現」「市民ギャラリーの新設」などリニューアルに向けた検討を進めていく。 ■ 拡充 □ 縮小・統廃合 ■ 質的向上 □ スピードアップ ■ 検証 □ 継続
-----------	---

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	学校の教育課程の中でやっているところもあると聞すが、週5日制では授業時数の確保が難しい。大切な価値は認めつつも地道にやっていくしかないのではないか。
---------------	--